「遊び」には、体と心と頭を鍛える大切な要素がつまっています。

ブランコ、ボールプール、縄ばしご……、楽しく遊んでいるように見えますが、これは大学の授業風景。帝京大学福岡医療技術学部・作業療法学科の実習室で、発達に障がいのある子どもたちの治療を目的とした「感覚統合療法」を学んでいるところです。「子どもというのは遊びを通して身体能力を高めたり、脳全体を活性化させたりします。また友だちと遊ぶことを通して社会性を育むものです。ですが、多少なりとも発達に問題を持つ子どもたちは、遊びを組み立てることが苦手。だからまわりの大人たちが、そのきっかけ作りをすることが大切なんです」。そう話すのは同学科の渡邊直美先生。ここに用意された遊具には、それぞれ治療としての意味や役割があるそうです。例えばブランコは、揺れに合わせて体重移動させることで、体を支えるバランス感覚が養われ、姿勢づくりに役立ちます。またボールプールは、全身が柔らかいボールに包まれることで、子どもをリラックスさせる効果があり、同時に背中や首の後ろなど普段は気づきにくい体の部位を意識させ、体のイメージを育てる役割があるのです。「ポイントは楽しく遊ぶこと。脳は自らが楽しんでいるときに一番成長します。だから学生たちは、子どもたちが自発的にチャレンジしてみたくなるような遊びの展開を考えます。遊びには、子どもたちの体と心と頭を鍛える大切な要素が詰まっているのです」。作業療法士の仕事は、子どもに限らず、障がいを持つ人や心に病を持つ人など、日常生活に何らかの問題を抱えた人々の治療を目的としています。学生たちがその魅力について語ってくれました。「作業療法で重要なのは、その人がその人らしく生きていけるようになることなので、人それぞれの状態や条件に合わせて治療プログラムを組んでいきます。例えば、片麻痺の症状を持つ人でもひとりで着替えられる方法があることを伝え、それができるまで一緒に練習する。日常生活に取り組みの基盤があるので、いろいろな話をしながら本当に必要なことを探っていく。普段なかなか体験できない人と人とのダイレクトなつながりがあり、自分が関わることで人生を少しでも良くできる可能性があることにやりがいを覚えます」。実習では、学生たちも楽しみながら、遊ぶことの意味を考えます。ここから全国の施設や病院、教育現場に巣立っていく作業療法士たち。私たちの人生の節目節目で、彼らに出会うこともあるかもしれません。

feel TEIKYO ft

あなたにつながる帝京大学　撮影・加瀬健太郎

帝京大学 本部大学PR推進室
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします

帝京大学のあれこれを充実のコンテンツと心地よい写真で紹介する冊子『feel TEIKYO』を配布中。特別付録は大宮エリーさんの書き下ろし小説です。請求先→ post@med.teikyo-u.ac.jp（本部大学PR推進室）